

リニア開業に向けた山梨県の取り組み

山梨県は、リニア開業効果を最大限に発揮させるため、交通弱者対策などの課題も含め、県全体の公共交通網のあり方について検討を進めています。

また、富士山五合目への新交通システムの導入、道路交通網の整備など、交通ネットワークの整備に力を入れています。

公共交通網の再編

リニア山梨県駅の利用者数増加や停車本数増加の好循環を生み出し、開業効果を最大化するとともに、交通弱者にも配慮した新たな公共交通網を構築することにより、県内公共交通の抜本的高度化に向けて取り組んでいきます。

このため、基幹路線や交通拠点、ラストワンマイル需要に応える地域内交通などを組み合わせた県全体の公共交通のあり方について、県と市町村から構成される公共交通網再編研究会を設置し、研究を進めています。

富士トラム(仮称)

富士山五合目の来訪者コントロールなどを実現するため、富士山麓と富士スバルライン五合目を結ぶ新交通システムの導入を検討しています。

トラムはゴムタイヤで走る新しい乗り物で、車両に搭載したセンサーが道路上の白線や道路に埋め込んだ磁気マーカールなどを読み取って走行します。

将来的には富士山とリニア駅をトラムで直結させ、県内各地に延伸することも視野に入れながら、リニア開業の効果を県民の暮らし向上や地域経済の活性化につなげていきます。

山梨県立リニア見学センター

山梨県立リニア見学センターは、時速500kmで走行する超電導リニアを間近で見学できる日本で唯一の施設です。2003年(平成15年)に鉄道の世界最高速度(当時)時速581kmを記録した試験車両をシンボル展示とし、リニアを「見て、学んで、体験できる」体験型展示物が満載の施設です。

時速500kmを
体感しよう!



リニア見学センターでは、走行試験時は、全てのフロアから走行する超電導リニアを見られます。特に2階の屋外見学テラスでは、時速500km走行を生で感じることができます。



どきどきリニア館



施設案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌火曜日)
(火曜日が祝日の場合は開館)

祝日の翌日(祝日の翌日が金・土・日曜日の場合は開館)

年末年始(12/29～1/3)※祝日には振替休日を含みます。

入館料 [一般・大学生] 420円 [高校生] 310円 [中学生・小学生] 200円
(20名以上団体割引あり)※わくわくやまなし館は無料

駐車場 無料

〒402-0006 山梨県都留市小形山2381
TEL 0554-45-8121 FAX 0554-45-8122
<https://www.linear-museum.pref.yamanashi.jp>



※リニアの走行試験が行われない日がありますので、試験の日程は、リニア見学センターのホームページにてご確認ください。







わくわくやまなし館では、1階に山梨のお土産のほか、リニアグッズが購入できるショップがあり、2階では県内の観光情報を発信しています。

内容についてのお問い合わせ先

リニア中央新幹線建設促進山梨県期成同盟会

(事務局:山梨県新価値・地域創造推進局リニア・次世代交通推進課)

〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 E-mail linear-jks@pref.yamanashi.lg.jp
TEL055-223-1664 FAX055-223-1666 HP <https://www.pref.yamanashi.jp/linear-kt/index.html>

リニア中央新幹線とは

リニア中央新幹線は、東京都から甲府市、名古屋市、奈良市附近を経由して大阪市までの約438kmを超電導リニアによって結ぶ新幹線です。

リニア実験線の今

富士山の北側を走る「山梨リニア実験線」では、1997年（平成9年）から走行試験が行われており、現在は営業線仕様第一世代となるL 0（エル・ゼロ）系による走行試験が行われています。

リニアへの期待

1 圧倒的なスピード

リニア中央新幹線は、航空機並みのスピードと新幹線の高速大量輸送能力を併せ持った画期的な輸送機関です。
リニア中央新幹線は、航空機のような搭乗手続時間は必要ありませんので、実質的なスピードは航空機よりも速いと言えます。

2 災害に強い国土の形成

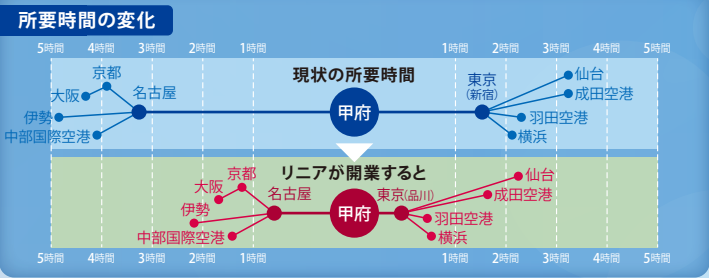
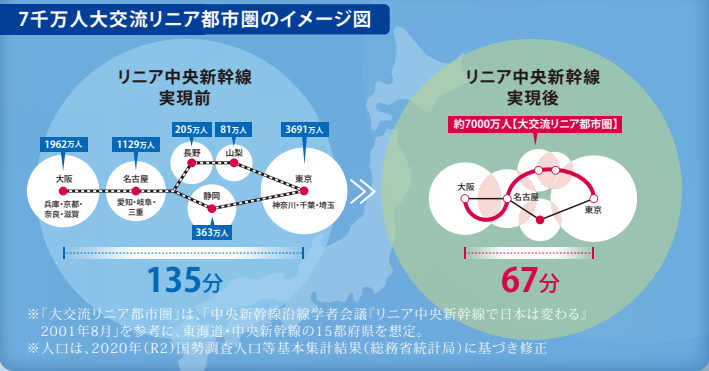
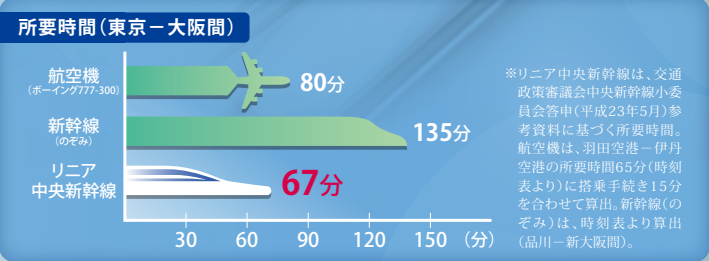
東日本大震災の教訓を踏まえ、日本の大動脈である東海道新幹線との二重化により災害に強い国土づくりを進めるためにも、リニア中央新幹線の早期全線整備は一層重要性を増しています。

3 大交流リニア都市圏の誕生

リニア中央新幹線は、移動時間を大幅に短縮することにより、数百kmという距離の壁をなくします。
このため、約7千万人の人口が集中し、経済や文化の活力がみなぎった地域があたかも一つの都市のように機能する大交流リニア都市圏が誕生します。

4 山梨は東京・世界と近くなる

リニア中央新幹線が開業すると、全国各地と山梨県との時間距離が大幅に短縮されます。特に中京圏、関西圏が無理なく日帰り可能な範囲になるメリットは大きいと考えられます。また、成田、羽田、中部の各空港が近くなることで、世界と山梨県もぐっと近づきます。



実験のあゆみ

1962年（昭和37年）に始まった超電導磁気浮上式鉄道の研究の開発は、1997年（平成9年）に宮崎実験線から山梨リニア実験線へと研究の場を移しました。
山梨リニア実験線では、宮崎実験線での基礎技術開発の成果を基に、超電導リニアの車両開発はもちろん、運転保安システムの開発や長期耐久性の検証など、リニア技術の確立に向けた様々な試験が、日本特有の起伏に富んだ地形・環境の中で行われています。
こうした中、2009年（平成21年）7月には、国の「超電導磁気浮上式鉄道実用技術評価委員会」において、「営業線に必要な技術が網羅的、体系的に整備され、今後詳細な営業線仕様や技術基準等の策定を具体的に進めることが可能となった」との評価を得ました。さらに2015年（平成27年）4月には有人走行で世界最高速度603km/hを記録するなど、その実現に向け大きな成果を上げています。



42.8kmに延伸された山梨リニア実験線を走行する超電導リニア。甲府盆地や南アルプスなどの景色とともに楽しむことができる。
(画像提供: JR東海)

実験の概要と走行試験

2013年（平成25年）に42.8kmまで延伸、設備も全面的に更新された山梨リニア実験線では同年9月以降、L0（エル・ゼロ）系車両により、走行試験を再開し、実用技術として完成した超電導リニア技術のブラッシュアップ及び営業線の建設・運営・保守のコストダウンに取り組んでいます。
また、2014年（平成26年）11月からは、走行試験スケジュールの一部を活用して超電導リニアの高速走行を体験することができる「体験乗車」を実施しています。2020年（令和2年）8月からは、改良型試験車が走行試験を開始しました。



2003年（平成15年）に当時の世界最高速度581km/hを記録した試験車両 MLX01-2。
現在は山梨県立リニア見学センターどきどきリニア館1階に展示されている。
(都留市: 山梨県立リニア見学センター)



営業線仕様のL0（エル・ゼロ）系改良型試験車。現在はこの車両で走行試験が行われている。
(都留市: 山梨実験センター付近)

リニアのこれから

1 ルートと駅

リニア中央新幹線の建設主体であるJR東海は、環境影響評価手続きの中で中央新幹線の東京都・名古屋市間のルートと駅位置を示しました。
山梨県内の路線延長は83.4km(地上部27.1km、トンネル56.3km)で山梨県駅は甲府市大津町付近に設置される計画です。

2 リニア中央新幹線開業まで

2011年（平成23年）5月に整備計画決定、建設指示がなされ、実現に向けて大きく前進したリニア中央新幹線。
JR東海による東京都・名古屋市間の環境影響評価の手続きを経て、2014年（平成26年）10月、全国新幹線鉄道整備法に基づく「工事実施計画」が認可され、リニア中央新幹線(品川・名古屋間)は建設段階に移りました。



※中央新幹線(東京都・名古屋市間)環境影響評価書(平成26年8月)より作成